

挑戦 4

PMR 資格試験への挑戦

東洋エンジニアリング株式会社
よねざわ てつや
米澤 徹也



1. はじめに

今年 3 月に PMR 資格を取得することができ、PMAJ 事務局から受験の動機、感想、及び今後の展望の 3 つのテーマで執筆の依頼を受けましたので以下に記します。

2. 受験の動機

1999 年に PMP®資格を取得後、PMAJ の PM 研究・研修部会にて 15 年以上にわたり PMP®試験対応講座の開催など PMBOK®ガイドを中心にした活動を継続してきました。この活動を通してここ数年は PMBOK®ガイドだけではなく、P2M を含むグローバルで用いられている主要な PM 標準についても勉強して、それらを比較研究する機会がありました。

どうせ P2M を勉強するなら資格も取ってみようかと考え始めていたところに、2016 年に PMS の受験資格が若干緩和され PMP®資格保持者も PMS プログラム試験(プロジェクトマネジメント部分を除いた試験)を受験することにより PMS を取得可能になったことをきっかけに、先ずは昨年 6 月に PMS の資格を取得しました。

PMS 取得後はその上位資格である PMR 受験への誘惑にかられ、世界の PM の流れがプロジェクトマネジメントからプログラムマネジメントになっていることもあり、P2M を忘れないうちにと思い受験することにしました。

3. 受験の感想

PMR 試験に先立ち、PMR 試験紹介セミナーや P2M 実践力養成講座が開催されますが、私はこのうち P2M 実践力養成講座に参加し、ここで PMR 試験では何が問われるのかその概要が分かり非常に有益でした。

PMR の試験は一次試験で論述試験と面談、二次試験ではモジュール試験 2 日間と面談があり、約 3 ヶ月弱にわたり計 5 回の土日をつぶして参加する必要があり、これだけでも大変なものでした。しかも論述試験やモジュール試験は、ある課題が与えられると制限時間内に論述し、その後グループで議論や発表を行うというもので、P2M の考え方に沿って経験や知識をベースに頭をフル回転させながら、あるべき姿や解決策を論理的に展開する必要があり、かなり疲れるものでした。ただ、出題された課題を解くためには経営的な視点が多分に必要で、これは試験というよりも課題解決へのアプローチのトレーニングを受け勉強しているという感覚を持ったほどです。

試験を通して得られた経験は、今後の業務にも十分に活かせるのではないかと考えています。

4. PMR としての展望

プロジェクトマネジメントの考え方は、各企業や組織にある程度普及してきていると思いますが、それがプロジェクトの成功につながっているかどうか怪しいところがあり、ここが今後の課題だと考えています。一方で、プログラムマネジメントについては、まだまだその言葉ですら浸透しているとは言い難いのが現状です。経営戦略や事業戦略に基づき設定されるミッションを実現するためのプログラムやプロジェクトをどのようにマネジメントするのか、この考え方は経営だけの話ではなく一般の業務においても十分に適用できるもので、プログラムマネジメントを身近な問題と捉えてもらえるよう、その普及に努めていきたいと思います。更に、プログラムマネジメント標準も P2M 以外にさまざまなものがあり、それらの比較研究を行い P2M の更なる改善に貢献できればと考えています。

【プロフィール】

1978 年東洋エンジニアリング(株)入社。主に海外の石油化学や一般産業プラントの設計、プロジェクトマネジメント業務に従事。

現在はプロポーザル本部にてコストエンジニアリング業務を担当。